

第3章 知的障害教育部門 中学部の研究

第3章

あたご部門中学部の研究

1 研究の方法

平成30年度の研究では、あたご部門中学部、わかくす部門中学部Ⅲ課程において、新学習指導要領の内容と星本の内容とを踏まえ、国語科及び数学科の年間指導計画を作成した。この年間指導計画は、あたご部門中学部、わかくす部門中学部Ⅲ課程の国語科及び数学科の学習内容を単元化して編成を行ったものである。令和元年度は、平成30年度に編成した年間指導計画に基づき、それぞれの部門で単元別指導計画表を作成して実践を行うことになり、あたご部門中学部では、国語科に絞って取り組んだ。成果として、記入の仕方や文言などについて学部内で確認したり、小グループで意見交換を行ったりしたことで、全職員で単元別指導計画表の作成にあたることができた。また、国語科の年間指導計画の作成についても同様に、小グループでの検討を重ねたことで、様々な視点から学習内容の構成や配列を考えることができた。さらに、平成30年度、課題として挙げていた単元別指導計画表を用いた研究授業を実施し、授業研究会においても、活発な意見交換を行うことができた。一方、課題としては、数学科及び他の教科においても、単元別指導計画表の作成を行うことが挙げられた。新学習指導要領の内容を踏まえた年間指導計画を作成していくため、国語科以外の各教科についても、記入の仕方や文言などの共通理解を図りながら、単元別指導計画表を作成していく必要があると考えた。加えて、令和元年度末に作成した単元別指導計画表のマニュアルを軸にした活用方法を検討していくことも必要であると考え、次のように研究を進めることにした。

〈研究の方向性〉

各教科において、単元別指導計画表を用いた研究授業と授業研究会を実施することで、育成すべき資質・能力の三つの柱に沿った目標設定や評価などを、教師間で共通理解しながら取り組むことができるのではないかと考える。また、授業研究会での意見交換等を踏まえ、授業改善を行っていくことで、様々な視点から学習内容の構成や配列を考えた年間指導計画を作成していく。

2 研究の経過

月	内容
4月	○平成30年度及び昨年度の研究内容と単元別指導計画表マニュアルVer.Ⅰについての説明（全体研究会） ○単元別指導計画表（国語科）の記入の仕方についての共通理解
5～6月	○学部内で三つの縦割りグループを編制し、各グループ内で、「中学部段階で育てたい力」や「見方・考え方」などについて検討 ○単元別指導計画表（国語科）の入力 ○単元別指導計画表のデータ保存及び新様式についての検討

7～8月	○単元別指導計画表の新データへの入力移行（個人作業） ○単元別指導計画表（数学科）の入力
9月	○単元別指導計画表の入力についての確認 ○研究授業（美術科）及び授業研究会の実施
10月	○研究授業（音楽科）及び授業研究会の実施 ○令和3年度の年間指導計画（国語科）の作成（各学年）
11月	○研究授業（数学科）及び授業研究会の実施 ○令和3年度の年間指導計画（数学科）の作成（各グループ）
12月	○研究授業（保健体育科）及び授業研究会の実施 ○令和3年度の年間指導計画（国語科・数学科）の確認

3 研究の実際

(ア) 「単元別指導計画表マニュアル Ver. I」を基にした活用の検討

令和元年度末に作成した「単元別指導計画表マニュアル Ver. I」を基に、4月の全体研究会及び学部研究会で、記入の仕方についての確認を行った。その後、学部内で三つの縦割りグループを編制し、中学部段階で育てたい力や見方・考え方などについて検討を重ねた上で、単元別指導計画表（国語科）の作成に取り組んだ。（資料①参照）各教科の見方・考え方については、学習指導要領やマニュアルを参考にして記入し、令和2年度末に「見方・考え方」を抜粋し、記入例としてまとめることにした。また、単元別指導計画表の入力及び様式についても、「単元別指導計画表マニュアル Ver. I」を基に、さらに活用しやすくするため、一部改訂を行った。（資料②参照）

まず、入力については、中学部段階で育てたい力の欄や記号で入力する欄などに選択肢を設定し、セルをクリックすると、必要な項目をすぐに選んで入力できるよう工夫した。次に、学習計画や学習活動、手立てや配慮事項の欄の配置を変更した。このような変更を行ったことで、研究会の日を活用して円滑に入力作業を進めることができた。また、新しい様式を用いて、教師間で共通理解を図りながら授業を実践することができた。

(イ) 国語科及び数学科の単元別指導計画表の作成及び年間指導計画の検討

国語科の単元別指導計画表の作成については、令和元年度に作成したデータを基に、令和2年度の担当者で加除修正を行いながら、記入を進めていった。数学科の単元別指導計画表については、新学習指導要領に示された目標及び内容を踏まえて、2学期の単元から記入を行った。また、令和3年度の年間指導計画を作成するにあたり、単元別指導計画表に記載した指導時数や指導時期などの反省を一覧表にしたものを作成し（資料③参照）、それを基に、時数の検討や生活単元学習、学校行事などと関連させた配列の検討を行った。検討する際は、国語科及び数学科においては、学年の生徒を実態別にグローピングして学習しているため、各学年の習熟度別に学部の職員を編制し、適宜グループで意見交換を行いながら作成を進めた。さらに、各単元の具体的な学習内容についても、改訂された星本を参考にして検討を行った。（資料④参照）

(ウ) 単元別指導計画表を用いた研究授業及び授業研究会の実施

2学期に入り、美術科（2年生：資料⑤参照）、音楽科（1年生）、数学科（2年生Bグループ：資料⑦参照）、保健体育科（全学年）の四つの教科において、研究授業及び授業研究会を実施し、各教科とも単元別指導計画表を作成して授業を行った。授業研究会では、「授業の良かった点」「他のアイデア等」「教育課程に関する気付き等」「単元別指導計画表に関する気付き等」の四つの視点で、各学年で意見を集約してから全体で共有するという方法で行った。

美術科の授業研究会では、年間指導計画に関して、「学年で扱う技法を明記し、段階を追って学習できると良い」「何度も同じ技法を学習しないように何の技法を経験させるか系統性をもたせてもよいと思う」などの意見が多く挙げられた。そこで、教務部と連携を図り、授業連絡会を活用して、学部全体で年間指導計画（美術科）の「デザイン」の技法に関する検討を行い、令和3年度から、各学年で系統的に技法を学習できるようにした。（資料⑥(1)(2)参照）

数学科の授業研究会では、金銭に関する学習の取扱いについて、活発な意見交換が行われた。「10のまどまり、100のまどまりの理解にはお金が分かりやすい」という意見がある一方で、「数学に『お金』という単元があるのは、新学習指導要領の内容からすると見直す必要があると思う。」という意見も挙がった。そこで、美術科の場合と同様に、授業連絡会を活用して、学部内で三つの縦割りグループを編制して年間指導計画の作成を行い、次年度は、「計算機」や「数の読み方」などの単元で金銭に関する学習を取り扱うことになった。（資料⑧(1)(2)参照）

4 まとめと今後の課題

3年間の研究において、国語科及び数学科の単元別指導計画表の作成と、これらを活用した研究授業及び授業研究会を実施することに取り組んだ。単元別指導計画表の作成にあたっては、平成30年度から、記入の仕方や文言などについて、学部内で確認しながら進めたことで、共通理解を図った上で作成にあたることができた。また、令和元年度末に作成した「単元別指導計画表マニュアル Ver. I」を基に、令和2年度に入ってから、学部内で検討して改訂を行ったことで、円滑に入力作業を進めることができるようになった。さらに、令和元年度から令和2年度の2年間で、国語科、数学科、音楽科、美術科、保健体育科の五つの教科において、単元別指導計画表を用いた研究授業及び授業研究会を実施することができた。各教科の授業研究会での意見を集約し、次の年度の年間指導計画編成に反映させるなど、単元別指導計画表の取組を軸にして好循環を生み出すことができた。

今後は、令和3年度からの単元別指導計画表の運用に向けて、国語科及び数学科の単元別指導計画表のデータを、令和3年度年間指導計画に照らし合わせて整理する予定である。併せて、授業で活用した教材教具についても、保管の仕方や場所等を検討したいと考えている。また、令和2年度に作成した単元別指導計画表（国語科・数学科）と、「見方・考え方」の記入例を学部職員に配付し、今後もこれらを活用した授業実践が進められるようにしたい。そうすることで、授業改善や年間指導計画の改善につながるのではないかと考える。

<参考文献>

○文部科学省	特別支援学校学習指導要領	平成 29 年度
○文部科学省	特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）	平成 30 年度
○文部科学省	こくご☆ こくご☆☆ こくご☆☆☆ 国語☆☆☆☆	平成 30 年度
○文部科学省	国語☆☆☆☆☆	令和 2 年度
○文部科学省	すうがく☆ すうがく☆☆ (1) すうがく☆☆ (2)	
	すうがく☆☆☆ 数学☆☆☆☆	平成 30 年度
○文部科学省	数学☆☆☆☆☆	令和 2 年度
○明治図書	「国語」「算数・数学」の学習指導案づくり・授業づくり	
		令和 2 年 6 月
○東洋館出版社	特別支援教育研究 No. 742 各教科等における見方・考え方	
		令和元年 6 月

<あたご部門中学部 資料一覧>

- 資料①：見方・考え方の提案
- 資料②：単元別指導計画表（新様式）
- 資料③：次年度に向けて（国語科 2 年 A グループ）
- 資料④：令和 3 年度 年間指導計画（数学科）
- 資料⑤：単元別指導計画表（美術科） 9 / 18 実施分
- 資料⑥：(1) 令和 2 年度年間指導計画（美術科）
(2) 令和 3 年度年間指導計画（美術科）
- 資料⑦：単元別指導計画表（数学科） 11 / 24 実施分
- 資料⑧：(1) 令和 2 年度年間指導計画（数学科）
(2) 令和 3 年度年間指導計画（数学科）

国語科指導計画表		単元名	【読みで分かることをまとめよう】	指導時期	(5) ~ (6) 月
単元計画 全 (8→9) 時間		(題材名) 「スーパーマーケットの見学」 5／11、13、18、25、27、6／1、3、8、10			
中学 部段階で育てたい力	◎ 生活の中で活用できる読み書き計算をする。【⑤イ】				
単元目標	A (知・技) B (思・判・表) C (学・人)	○長音、拗音、促音、撥音、助詞の読み方や書き方を学び、正しく読み書きができる。【中1：ア(ウ)】 ○語のつまりに気を付けて音読することができる。【中1：ア(キ)】 ○語や語句の意味をもとに、事柄の順序や内容の大体を捉え、ワークシートにまとめることができる。【中1：Cイ】 ○自分から進んで文章を読み、分かった語や語句を、ワークシートに記入したり、発表したりしようとする。【中1段階】			
見方・考え方	「ワークシートを手掛かりに、文章を読み込んで分かったことをまとめよう。」	【(5)～(6)月までの目標】 「読みで分かることをまとめよう」	【読みで分かることをまとめよう】	【(5)～(6)月までの目標】 「読みで分かることをまとめよう」	
題材		【〇学習活動】 (育成すべき資質・能力) ※場面ごとに区切って学習を進める。 ○「スーパーで買い物をする」という絵を見て、物語りをします。 ○漢字の読み書きをする。(知・技) ○必要な語や語句をワークシートに書き出す。(知・技) ○書き出した語や語句を発表する。(思・判・表) ○文や文章を読み込んで、必要な語や語句をワークシートに記入する。 ○語や語句のつまりに気を付けて、正しく読みることができたか。 ○語や語句を正しく書くことができたか。	【手立て、指導上の留意点等】 ○活動のねらいと手立て・配慮 ○語や語句を正しく読めるか確認するため、段落ごとに交代しながら読ませる。 ○文章を拡大したものを提示し、教師が指示棒を使って、読ませたい文や文章を知らせる。 ○場面ごとにプリントを作成し、漢字の読み書きを行わせる。 ○漢字については、小学1～2年生程度の分に絞って学習させる。その他については、ぶりがなをふつておく。 ○場面ごとにワークシートを1～2枚作成し、文章を読んで語や語句を抜き出して書かせる。 ○書き出す語や語句を見付けられない場合は、文章を読み返したり線を引いたりして気付かせる。 ○場面ごとにワークシートの答え合わせを行う。 ○全員が発表して正答できるように、交代しながら発表させる。	【教材】 ・国語☆☆☆ P 48～53 ・プリント(漢字) ・ワークシート	
単元評価	項目 指導時数、指導時期 目標、評価、学習内容、手立て 教材、場の設定 育てたい力	評価 評価 (◎○△) △ ○ ○ ○	A (知識・技能) ○語や語句のつまりに気を付けて、正しく読みることができたか。 ○語や語句を正しく書くことができたか。	B (思考・判断・表現) ○文や文章を読み込んで、必要な語や語句をワークシートに記入する。 ○語や語句のつまりができたか。	C (主体的に学習に取り組む態度) ○自ら進んで文章を読もうとしたり、ワークシートに記入したり語や語句を発表したりすることができるか。
次年度に向けて	項目 指導時数、指導時期 目標、評価、学習内容、手立て 教材、場の設定 育てたい力	評価 評価 (◎○△) △ ○ ○	次年度への課題 グループ学習を始めて最初の単元だつたため、もう少しグループでの学習を深めた後の時間でも良かったのではないかと思う。 朝の運動や委員会活動の後に授業があることと、移動があることで、45分間の授業時間を確保することが難しかった。		

資料②：単元別指導計画表（新様式）

国語科指導計画表		単元名	指導時期		()月	
単元計画 全()時間	(題材名)「 時間 中學 部段階で育てたい力 A (知・技) B (思・判・表) C (学・人)	年間指導計画に示されている時数を記入する。 変更があった場合は、「5→6」など、変更した時数が分かるように記入する。		※中学部段階で該当するものが無い場合は「小学部段階で必要な力」より抜特。		
単元目標	「中学部段階で必要な力」より抜特。 「 ○ ○ ○ ○	単元目標は、学習指導要領を参考に、目標に合った文言で記入する。 ※今年度は、昨年度分を参考にする。				
見方・考え方		単元目標は、学習指導要領を参考に、目標に合った文言で記入する。 ※今年度は、昨年度分を参考にする。				
題材	日付 【○学習活動】	【・手立て、配慮事項、指導上の留意点等】		【教材・教具等】		
A (知識・技能)						
次年度に向け て	項目 指導時数、指導時期 目標、評価、学習内容、手立て 教材、場の設定 育てたい力			次年度への課題 反省は、教師側の視点で記入する。改善点も記入する。		

国語 A (2年)

時期	単元名	次年度に向けて
4月	力試しをしよう	コロナウイルスで途中休校になり、 <u>4時間計画だったのが3時間になったが、それでも時間は十分にあった。</u>
5月(1)	先生に報告しよう	今回は作業場面しか想定できなかったので、体調不良時など様々な場面での報告を考えさせるために <u>もう1時間あってもいいかな、</u> と思った。
5月(2)	詩に親しもう	
6月	日記を書いて発表しよう	本当は、実習3日間全ての日記を書かせたかったが、時間的に初日だけしか書けなかった。 <u>これ以上時数を増やさなくてもいいが、指導方法を工夫する必要があると感じた。</u>
7月	ローマ字に親しもう	
9月(1)	説明文を読もう	・全8時間単元だったが。 <u>8時間も要らなかった。</u> 教育課程表にある題材の中では、はがきとかざぐるまとあったが、はがきは紙工班で作るため、かざぐるまを取り上げた。題材の種類が増えれば8時間でも良いかも知れない。今回は、実質5時間だけで、残り3時間は1学期に受けられなかった漢検の問題を解いた。
9月(2)		
9月(3)		

中学部 第3学年 その3

美術科指導計画表		単元名	ポスターを作ろう	指導時期	(9~10)月	
単元計画 全(6)時間		(題材名)「ポスターを作ろう」				
中学 部段階で育てたい力	○いろいろな場面において、自分にとつて必要な要素や意思を伝える。【②イ】	○未経験なことや苦手なことに挑戦する。【小④ウ】				
A (知・技)	○材料や用具の使い方を知り、表したいことに合わせて、表し方を工夫したり材料や用具を選ぶことができる。		[中 1 : A ア (I)]			
B (思・判・表)	○混色や色の濃淡、画材の種類の違いがわかる。 ○伝たいことや材料、既習の技法を基に、表したいことや表し方を考え、発想や構想することができます。		[中 1 : 共 ア (F)]			
C (学・人)	○形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつことができる。 ○楽しく美術の活動に取り組み、創造する喜びを味わい、積極的に表現しようとする。		[中 1 : 共 ア (I)]			
見方・考え方	いろいろな技法を経験し、その中から表現したい内容に合わせて技法を選んだり併せたりして表現する 想像力を働かせたり、表現したい内容に自分なりの意味や価値をもたせたり	学習を通して、すること。				
日付		【〇学習活動】				
9/8	○吹流し(ドリッピング)、合わせ絵(デカルコマニー)の仕方を知る。	(知・技)	・いくつかのポスターを見比べさせ、ポスターに必要な事柄(行事名、場所、日付など)やそれらの大きさ、位置などに気付かせる。	・ボスター一枚枚 ・画用紙 ・絵の具セット ・ストロー(太い、細い) ・スティート ・運動会の写真 ・ステンシルの文字 (運動会) ・スポーツジン(ステンシル用) ・運(赤、青、黄、黒)の文字(骨盤に重ねて、文字の色を選択させる用)		
9/18	○吹流し、合わせ絵などの技法を使って、ポスターのデザインをする。	(知・技) (思・判・表) (学・人)	・吹流し、合わせ絵の仕方の手本を見せ、取り組ませる。 ・絵の具や水の量に注意せながら、自由に取り組ませる。 ・お互いの作品を見合うことで、いろいろな表現のヒントにする。			
9/25	○ポスターのデザインに文字や必要事項を追加し、ポスターを完成させる。	(知・技) (思・判・表) (学・人)	・自分が伝えたい内容がより表現できるかとどういう視点で、吹流し、合わせ絵のどちらかを選ばせたり、両方を組み合わせたりするように声掛けをする。 ・画用紙いっぱいに表現できるように声掛けをする。			
題材		【・手立て、配慮事項、指導上の留意点等】				
9/8	○吹流し(ドリッピング)、合わせ絵(デカルコマニー)の仕方を知る。	(知・技)	・吹流し、合わせ絵の仕方の手本を見せ、取り組ませる。 ・絵の具や水の量に注意せながら、自由に取り組ませる。 ・お互いの作品を見合うことで、いろいろな表現のヒントにする。	・自分が伝えたい内容がより表現できるかとどういう視点で、吹流し、合わせ絵のどちらかを選ばせたり、両方を組み合わせたりするように声掛けをする。 ・画用紙いっぱいに表現できるように声掛けをする。		
9/18	○吹流し、合わせ絵などの技法を使って、ポスターのデザインをする。	(知・技) (思・判・表) (学・人)	・自分が伝えたい内容がより表現できるかとどういう視点で、吹流し、合わせ絵のどちらかを選ばせたり、両方を組み合わせたりするように声掛けをする。	・吹流しや合わせ絵で描いたデザインの上に、知らせたい内容の文字を書いたり、貼り付けさせたりする。 ・友達の作品を混合うことで、友達の表現のよさや自分のよさに気付かせる。		
9/25	○ポスターのデザインに文字や必要事項を追加し、ポスターを完成させる。	(知・技) (思・判・表) (学・人)				
単元評価		A (知識・技能) ○手描く際、必要なこと(内容、大きさなど)を発表したり指差したりすることができます。 ○吹流しや合わせ絵で自分の考えに合わせて、色やその濃さなどを選ぶことができたか。				
次年度に向け育てたい力		B (思考・判断・表現) ○自分の伝えたい内容に合わせて、吹流しや合わせ絵の技法を運ぶことができたか。 ○自分の考えに合わせて、色やその濃さなどを選ぶことができたか。				
指導時数、指導時期		項目	評価 (◎◎◎)	C (主体的に学習に取り組む態度) ○吹流しや合わせ絵でできた描画を見て、感想を言つたり楽しもうな表情をしたりすることができます。 ○友達の作品を見て、感想を言つたり好きな作品を指差したりすることができたか。		
目標、評価、学習内容、手立て				次年度への課題		
教材、場の設定						

令和2年度 年間指導計画(美術)

〈中学部 全学年〉

月区分	4 (3週)	5 (4週)	6 (4週)	7 (2週)	8 (4週)	9 (4週)	10 (4週)	11 (2週)	12 (2週)	1 (3週)	2 (3週)	3 (2週)	年間授業時数 (週時数)
1 学年	<p>〈絵画〉(6) ○人や物をよく鏡で描こう ・形や色彩などの特徴を捉える ・鑑賞</p> <p>〈立体〉(7) ○立体を作ろう(粘土) ・素材の特徴を知る ・材料を基に表したいことを考える ・鑑賞</p> <p>〈壁面制作〉※担当月に実施 ○季節の壁面を作ろう　・いろいろな画材を使う　・鑑賞</p>	<p>〈版画〉(2) ○夏休み校内作品展</p> <p>〈鑑賞〉(2) ○ポスターを作ろう ・知らせる事柄を考える ・形や色彩の組み合わせを工夫する ・制作・技法・鑑賞</p>	<p>〈版画〉(6) ○版画をしよう ・形を写し取る ・版画の特徴に興味をもつ ・葉、野菜などを使った版画やスタンプ ・制作・技法・鑑賞</p>	<p>〈版画〉(6) ○版画をしよう ・形を写し取る ・版画の特徴に興味をもつ ・葉、野菜などを使った版画やスタンプ ・制作・技法・鑑賞</p>	<p>〈工芸〉(8) ○自分で使える作品を作ろう(焼き物) ・工程や手順が分かり、完成の見通しをもつて作る ・鑑賞</p>								
2 学年	<p>〈絵画〉(6) ○鏡のこと、経験したこととを描こう ・表したいことに合った用具を選ぶ ・制作・鑑賞</p> <p>〈版画〉(7) ○版画をしよう ・版画の特徴を知る ・紙版画 ・制作・技法・鑑賞</p> <p>〈壁面制作〉※担当月に実施 ○季節の壁面を作ろう　・いろいろな画材を使う・制作・鑑賞</p>	<p>〈版画〉(2) ○夏休み校内作品展</p> <p>〈デザイン〉(6) ○ポスターを作ろう ・知らせる事柄を考える ・形や色彩の組み合わせを工夫する ・制作・技法・鑑賞</p>	<p>〈立体〉(6) ○立体を作ろう ・素材の特徴を知る ・作りたい形を立体にする ・自然物を使つた立体 (石、どんぐり、まつぼっくりなど) ・制作・技法・鑑賞</p>	<p>〈版画〉(7) ○版画をしよう ・版画の特徴を立てる ・制作・技法・鑑賞</p>	<p>〈工芸〉(7) ○自分で使える作品を作ろう(焼き物) ・工程や手順が分かり、完成の見通しをもつて作る ・制作・鑑賞 (うれしい)作品展見学)(1) ・鑑賞</p>								
3 学年	<p>〈絵画〉(6) ○親のこと、想像したことを描こう ・表したいことに合った用具を選ぶ ・制作・鑑賞</p> <p>〈立体〉(7) ○立体を作ろう ・材料を組み合わせて作る ・作りたい物をイメージする ・自然物、日用品などを使つた立体 ・鑑賞</p> <p>〈壁面制作〉※担当月に実施 ○季節の壁面を作ろう　・いろいろな画材を使う・鑑賞</p>	<p>〈版画〉(1) ○夏休み校内作品展</p> <p>〈デザイン〉(6) ○ポスターを作ろう ・知らせる事柄を考える ・形や色彩の組み合わせを工夫する ・制作・技法・鑑賞</p>	<p>〈版画〉(7) ○版画をしよう ・版画の特徴を立てる ・表現を工夫する ・木版画、スチレン版画 ・制作・技法・鑑賞</p>	<p>〈工芸〉(8) ○卒業記念品制作～思い出を残そう ・卒業記念品を考える ・鑑賞</p>	<p>〈工芸〉(8) ○自分で使える作品を作ろう(焼き物) ・静かに鑑賞する</p>								

講義⑥(1): 令和2年度 年間指導計画(美術科)

【材料】：表現の目的に合った物を選択する。
 土、砂、石、粘土、草木などの自然物、
 紙、布、積み木、アルミ箔、空き缶、針金、ゴム、金属、プラスティック
 リノリウム、ニス、水性・油性塗料、建築、土木工業用の資材など

【用具】：適切な扱い方の指導をする。安全面に留意する。

・ペン、クレヨン、水彩絵の具、カラーペン、のり、接着剤、ステープラー、はさみ、へら、シャベル
 ・かなづち、ペンチ、小刀、くぎ、ねじ、接着剤などの木工加工用品、糸のこ盤、
 金属加工用具、研磨剤などの電動工具など

【絵画・版画の題材】

・土、砂、石、粘土、草木などの自然物、
 静物・風景・人物などの観察、描写

・人・動物・乗り物・建物など
 学校行事・社会行事などの印象、

・箱・筆立て・ペン皿・焼き物の
 器物など

・ポスター・案内標示・標識・カット
 表紙装丁・デザイン・模様・装飾など

【版画の種類】

・凸版：紙版画、粘土版画、木版、

・ゴム版画、スチレン版画、

・コラグラフ、リノリウム版など

・孔版：ステンシル、シルクスクリーンなど

【鑑賞のポイント】

・コラージュ・スクラッチ
 ・スタンピング・レタリング

・デカルコマニー・マスキング
 ・マーブリング・ドリッピング

・スパッタリングなど

・筆記の際は、「鉛筆で」など

※材料、用具を組み合わせて、学年で計画を立てること

令和3年度 年間指導計画(美術)

〈中学部 全学年〉

月区分	4 <3週>	5 <4週>	6 <4週>	7 <2週>	9 <4週>	10 <4週>	11 <4週>	12 <2週>	1 <3週>	2 <3週>	3 <2週>	年間授業時数 (週時数)
1 学年	〈絵画〉(6) ○人や物をよく見て描こう ・形や色彩などの特徴を捉える ・鑑賞	〈立体〉(7) ○立体を作ろう(粘土) ・素材の特徴を知る ・材料を基に表したいことを考 える ・鑑賞	〈鑑賞〉(2) ○夏休み校内 作品展	〈デザイン〉(6) ○ポスターを作ろう ・知らせる事柄を考える ・形や色彩の組み合わせを工 夫する ・リップング、スパッタリング ・制作・技法・鑑賞	〈版画〉(6) ○版画をしよう ・形を写し取る ・版画の特徴に 관심をもつ ・葉、野菜などを使った版画や スタンプ ・制作・技法・鑑賞	〈工芸〉(8) ○自分で使える作品を作 ろう(焼き物) ・工程や手順が分かり、完 成の見通しをもつて作る ・鑑賞	35 (1)					
2 学年	〈絵画〉(6) ○観たこと、経験したこと 描こう ・表したいことに合った用具 を選ぶ ・制作・鑑賞	〈版画〉(7) ○版画をしよう ・版画の特徴を知る ・紙版画 ・制作・技法・鑑賞	〈鑑賞〉(2) ○夏休み校内作 品展	〈デザイン〉(6) ○ポスターを作ろう ・知らせる事柄を考える ・形や色彩の組み合わせを工 夫する ・デカルコマニー、スタンピ ング ・制作・技法・鑑賞	〈立体〉(6) ○立体を作ろう ・素材の特徴を知る ・作りたい形を立体にする ・自然物を使った立体 (石、どんぐり、まつぼっくりなど) ・制作・技法・鑑賞	〈工芸〉(8) ○自分で使える作品を作 ろう(焼き物) ・工程や手順が分かり、完 成の見通しをもつて作る ・制作・鑑賞	35 (1)					
3 学年	〈壁面制作〉※担当月に実施 ○季節の壁面を作ろう ・いろいろな画材を使う ・鑑賞	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	8
	〈絵画〉(6) ○観たこと、想像したこと 描こう ・表したいことに合った用具 を選ぶ ・制作・鑑賞	〈立体〉(7) ○立体を作ろう ・材料を組み合わせて作る ・作りたい物をイメージする ・自然物、日用品などを使った立体 ・鑑賞	〈鑑賞〉(1) ○夏休み校内作 品展	〈デザイン〉(6) ○ポスターを作ろう ・知らせる事柄を考える ・形や色彩の組み合わせを工 夫する ・マーブリング、ストリーリング ・制作・技法・鑑賞	〈版画〉(7) ○版画をしよう ・版画の特徴を知り、表現 を工夫する 木版画、スチレン版画 ・制作・技法・鑑賞	〈工芸〉(8) ○卒業記念品制作～思い出を残そう ・卒業記念品を考える ・鑑賞	35 (1)					
	〈壁面制作〉※担当月に実施 ○季節の壁面を作ろう ・いろいろな画材を使う・制作・鑑賞	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	8

資料⑥(2): 令和3年度 年間指導計画(美術科)

【材料】: 表現の目的に合った物を選択する。

- ・土、砂、石、粘土、草木などの自然物、
- ・紙、布、積み木、アルミ箔、空き缶、針金、ゴム、金属、プラスティック
- ・リノリウム、ニス、水性・油性塗料、建築、土木工業用の資材など

【絵画・版画の題材】

- ・静物・風景・人物などの観察、描写
- ・学校行事・社会行事などの印象、想像画

【デザインの題材】

- ・ポスター・楽器デザイン・表紙装丁デザインなど
- ・工具や機器の構造、機能、操作方法など
- ・材料、用具を組み合わせて、学年で計画を立てること

【用具】: 適切な扱い方の指導をする。安全面に留意する。

- ・ペン、クレヨン、水彩絵の具、カラー・ペインティング
- ・かなづち、ペンチ、のこぎり、ねじ、接着剤などの木工用品、糸のこ盤、金属加工用具、研磨剤などの電動工具など

【版画の種類】

- ・凸版: 紙版画、粘土版画、木版、ゴム版画、スチレン版画、コラグラフ、リノリウム版など
- ・箱・筆立て・ペン皿・焼き物の容器
- ・孔版: ステンシル、シルクスクリーンなど
- ・コラージュ・スクラッチ・スタンピング・デカルコマニー・マスキング・マーブリング・ドリッピング・スパッタリングなど
- ・静かに鑑賞する
- ・話すときは、小声で
- ・会場は走らない
- ・作品には触らない
- ・筆記の際は、「鉛筆で」など

数学科指導計画表		単元名	単元名	お金	指導時期	(11~12)月
全(6)時間	(題材名) 「 お金 」					
中学生段階で育てたいか	◎生活の中で活用できる技能を身に付ける。【⑤イ】					
A (知・技)	○各析で使用する硬貨を知り、500円玉、50円玉を利用した金額の出し方や金額の読み取り方が分かる。	【 小 2 : A ア (フ) ク 】				
B (思・判・表)	○3位数の読み方に慣れることができる。	【 中 1 : A ア (フ) イ 】				
C (学・人)	○提示された金額を500円玉、50円玉、5円玉を利用して、硬貨を分けたり、数えたりして金額を表すことができる。	【 小 2 : A イ 】				
見方・考え方	買い物における支払いや小遣い帳の付け方など金銭の取り扱いに興味をもち、積極的に取り組むことができる。	【 小 2 : A ウ 】				
日付	【○学習活動】 ○本单元の学習内容を知る。 ・500円玉、50円玉、5円玉を使ってお金を出す。(1学年) ・100円玉、10円玉、1円玉を使つてお金を出す。(1学年の復習) ・500円玉、50円玉、5円玉を利用しながら出す。 ※毎時間の最初に「次のトレーニング(数柰し)として3桁の数の読み方について学習する。	【手立て、配慮事項、指導上の留意点等】 (知・技) (思・判・表) (学・人)	【手立て、配慮事項、指導上の留意点等】 ・各析の数字に注目できるよう、3桁の金額を位ごとに色を分けて示す。 ・一人当たり五百円玉1枚、百円玉4枚、五十円玉1枚、1円玉4枚を準備する。 ・位取り表は桁で色を変える。各析で使用的な金種をイラストで示す。 ・商品カードは位取り表に合わせて、桁で色を変える。 ・商品カードの箇段も位取り表の色に合わせて表示する。	【教材・教具等】 ・位取り表 (教師用) ・両替シート (教師用) ・両替シート (小遣い) ・各硬貨 ・拡大した各硬貨のカード (教師用) ・便札つき商品 (お菓子の箱など) ・かご ・ワークシート (小遣い帳) ・財布 ・空き箱などの商品 ・商品カード ・購入したときのレシート	【教材・教具等】 ・位取り表 (教師用) ・両替シート (教師用) ・各硬貨 ・拡大した各硬貨のカード (教師用) ・便札つき商品 (お菓子の箱など) ・かご ・ワークシート (小遣い帳) ・財布 ・空き箱などの商品 ・商品カード ・購入したときのレシート	学習を通して、 すること。
題材	11/19 ○模擬店で買い物をする。 ・教師が店員になり、ちょうどどの金額での支払いを行う。	(知・技) (思・判・表) (学・人)	・五百円玉1枚、百円玉4枚、五十円玉1枚、1円玉4枚を準備する。 ・個別の課題を設定し、準備する。(500円玉、50円玉、5円玉のいずれか1枚のみ使う課題、いずれか2枚を判断して使う課題) ・それぞれ五百円玉1枚、百円玉4枚、五十円玉1枚、1円玉4枚を準備する。 ・500円玉、50円玉、5円玉のどれかを1~3枚使用しなければならない金額を設定する。 ・他段は分けずに示す。			
	11/24 ○校外学習で買い物をする。 ・公共交通機関での支払いなど	(知・技) (思・判・表) (学・人)	・購入する前に、足りるかどうかを教師に確認せざるようにし、レジに向かう前に位取り表を利用して、両替の硬貨を準備する。			
	11/26 ○教員が店員になり、ちょうどどの金額での支払いを行う。	(知・技) (思・判・表) (学・人)	・レシートの「合計」の文字に注目できるように、ラインなどを引き、購入金額を確認させる。			
	12/1 ○小遣い帳について知る。 ○小遣い帳を記入する。「ここがら」や「使ったお金」の欄を記入する。 ○レシートを見て、「ここがら」と「使ったお金」の欄を記入する。 ○残金を数え、「残り」の欄を記入する。 ・個別課題に取り組む。	(知・技) (思・判・表) (学・人)	・位取り表を用いて、残金を確認させる。 ・品名と金額と残金のみ記入させる。 ・個別の課題を設定し、準備する。(500円玉、50円玉、5円玉のいずれか1枚のみ使う課題、いずれか1枚をを使った課題、いずれか2枚を使った課題)			
	12/3 12/6 ○小遣い帳を記入する。	(知・技) (思・判・表) (学・人)	○(思考・判断・表現) ・位取り表のイラストを見て、各析で使う正しい金種を選ぶことができる。 ・お金を出す学習で500円玉、50円玉、5円玉を使用しようとしたか。	C (主体的に学習に取り組む態度) ○(思考・判断・表現) ・小遣い帳の内容を取り扱うならば、適当であるが、実態的に難しい。支払いを取扱うならばもう少し早い方がいい。 ・新学習指導要領の中で「お金」という単元はないため、内容の検討が必要。数の学習としての手段としてお金を取り扱うか。	次年度への課題	
単元評価	次年度に向けた目標と併せて検討が必要。	項目	評価 (○△○△)			

中学部 第3学年 その3

令和2年度 年間指導計画

月区分	4 (3週)	5 (4週)	6 (4週)	7 (2週)	8 (4週)	9 (4週)	10 (4週)	11 (4週)	12 (2週)	1 (3週)	2 (3週)	3 (2週)	年間授業時数 (週時数)	
A	○正負の数 (6) ・加法と減法の 基本的な計算 ・乗法と除法 ・交換法則と 分配法則 ・数の範囲と 四則	○平面图形① (4) ・图形の移動 ・作図 ・比例する量 ・比例の式、表 グラフ ・反比例する量 ・反比例の式 ・文字の使用 表、グラフ ・代入と式の計算	○比例と反比例 (6) ⑩ ・閲数 ・比例する量 ・比倒の式、表 ・反比例する量 ・反比例の式 ・文字の使用 表、グラフ ・代入と式の計算	○1学期の振り返り (4) ・1学期確認テスト ・答え合わせ ・間違った問題を 復習する	○平面图形② (8) ・平行移動 ・回転移動 ・対称移動 ・おうぎ形 ・おうぎ形の中心 ・角の意味を知る	○方程式 (8) ・方程式の解き方 ・位置関係 ・方程式の解き方 ・体積や表面積	○空間图形 (8) ・直線と平面の 位置関係 ・方程式の解き方 ・体積や表面積	○2学期の振り返り (4) ・2学期確認テスト ・答え合わせ ・間違った問題を 復習する	○資料の分析と利用 (4) ・度数分布 ・範囲と代表値 ○方程式 (4) ・1次方程式の 解き方 ・比例式の利用	○関数 (4) ・比例と反比例の グラフの活用 ・グラフと代表値 ・答い合わせ ・間違った問題を 復習する	○3学期の振り返り (4) ・3学期確認テスト ・答い合わせ ・間違った問題を 復習する			
B	○力試しをしよう (4) ・2年生の復習	○時刻と時間 (5) ・分単位の時刻を読みむ (デジタル) ・O時5分から30分まで、5分 刻みの時刻を読みむ (アナログ)	○時刻と時間 (6) ・10の位、百の位 を理解し、金額を正しく 書く ○計算機の使い方 (6) ⑩ ・100までの数の計算を する	○長さ・重さ・かさ (8) ⑩ ・cmの単位を正しく読み書きする ・cmの長さ (cm) を測る ・直線を引く ・g、mの単位を正しく読み書き ・はかりで重さと量を量る ・目盛りを正しく読み	○お金 (6) ⑩ (修学旅行に向けて) ・計算機の使い方 ・お小遣い金をする ・予算内で買い物をする	○お金 (6) ⑩ (バザーに向けて) ・計算機を使う ・プリントに必要な 数字を記入し、計 算をする (かけ算、 引き算)	○お金 (6) ⑩ (バザーに向けて) ・身長と体重など を測る ・折れ線グラフな どに、正しく印 を付けて表す	○お金 (6) ⑩ ・長さ・重さ・かさ (8) ⑩ ・身長とグラフ (6) ・1年間のまとめ (4) ・まとめのテスト	○お金 (6) ⑩ ・長さ・重さと量を量る ・天秤を使って重さを比べる	○图形 (8) ・方眼ノートと定規を使つて ・方眼と直線で結び、三角 形や四角形を描く ・コンパスを使って、円を 作成する	○图形 (8) ・定規を引く ・一定の長さの直線を引く ・一定の長さに印をつける	○图形 (6) ・6種類の硬貨のマッチングをする ・お店や自販機で買い物をする ・計算機の使い方 ・お小遣い金をつける ・おかいもの計算をする	○測定 (8) ・定規を使って直線を引く ・一定の長さの直線を引く ・一定の長さに印をつける	○測定 (6) ⑩ ・はかりで重さと量を量る ・天秤を使って重さを比べる
C	○力試しをしよう (4) ・2年生の復習	○時刻と時間 (6) ・10までの数 (10) ⑩ ・10までの数のマッチングをする ・10までの数の型めをする ・簡単な計算をする ・具体的な計算をする ・指示された数の具体物をとる ・計算機を使う ・指示されたボタンを押す	○時刻と時間 (6) ・「今日」の日付に印をつける ・日めくりカレンダーを毎日読む ○測定 (6) ・高いを知る ・低いを知る ・広い、狭いを知る	○測定 (8) ・「今日」の日付に印をつける ・日めくりカレンダーを毎日読む ○測定 (6) ・高いを知る ・低いを知る ・広い、狭いを知る	○測定 (6) ⑩ ・金額などを使つて、指示され た金額の硬貨を並 べる ・書かれた硬貨を出 す	○測定 (6) ⑩ ・金額などを使つて、指示され た金額の硬貨を並 べる ・書かれた硬貨を出 す	○測定 (6) ⑩ ・金額などを使つて、指示され た金額の硬貨を並 べる ・書かれた硬貨を出 す	○5～10までの棒グラフ (6) ⑩ ・具体的な数を棒グラフに表す					16	

